

## ■ 本文

仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拝まざりければ〔①〕、心うく覚えて、ある時思ひ立ちて、ただ一人、徒歩より〔②〕詣でけり。極楽寺・高良などを拝みて、かばかり〔③〕と心得て帰りにけり。

さて、かたへの人にあひて、「年ごろ思ひつること、果たしはべりぬ。聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ〔④〕。そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、何事かありけん、ゆかしかりしかど〔⑤〕、神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ず」とぞ言ひける。

少しのことにも、先達はあらまほしきことなり〔⑥〕。

## ■ 設問 (全22問)

1. 傍線部①「拝まざりければ」を品詞分解し、「ざり」の文法的意味（はたらき）を答えなさい。
2. 「心うく覚えて」を現代語訳しなさい。
3. 傍線部②「徒歩より詣でけり」を、「より」の意味がはっきりわかるように現代語訳しなさい。
4. 「詣でけり」「帰りにけり」の文末に共通して使われている助動詞「けり」の文法的意味を答えなさい。
5. 傍線部③「かばかり」とは、法師が何を「これだけのものだ」と思ったのか、わかりやすく説明しなさい。
6. 「帰りにけり」の「に」は何の助動詞の何形ですか。基本形（終止形）と活用形を答えなさい。
7. 「かたへの人」とはどのような人のことですか。意味を答えなさい。
8. 「年ごろ思ひつること、果たしはべりぬ」を現代語訳しなさい。
9. 「年ごろ思ひつること」の「年ごろ」の意味を答えなさい。
10. 「果たしはべりぬ」の「はべり」は、どの種類の敬語（尊敬・謙譲・丁寧）ですか。また、ここでは誰に対する敬意ですか。
11. 「尊くこそおはしけれ」の「おはし」は、どの種類の敬語（尊敬・謙譲・丁寧）ですか。基本形（終止形）も答えなさい。
12. 傍線部④「尊くこそおはしけれ」について、(1) この一文に使われている文法のきまりの名前を答え、(2) 結びの「けれ」の活用形を答えなさい。
13. 「何事かありけん」の「か」と「けん（けむ）」について、(1) 係助詞「か」によって生じている文法のきまりの名前、(2) 「けん（けむ）」の文法的意味を答えなさい。
14. 傍線部⑤「ゆかしかりしかど」の「ゆかし」の意味を答えなさい。
15. 「神へ参るこそ本意なれ」の「本意」の読み方（ひらがな）と意味を答えなさい。
16. 「山までは見ず」とあるが、山を見なかったのは誰ですか。
17. 「とぞ言ひける」では、係助詞「ぞ」を受けて文末が「ける」となっています。このきまりの名前と、「ける」の活用形を答えなさい。

18. この章段で、作者が「先達はあらまほしきことなり」と述べて伝えたかった教訓を、わかりやすく説明しなさい。
19. 傍線部⑥「先達はあらまほしきことなり」を現代語訳しなさい。
20. 傍線部⑥「あらまほしき」を品詞分解しなさい（どこで区切れ、それぞれ何かを答える）。
21. 法師が山に登らなかったのはなぜですか。本文の言葉を使って説明しなさい。
22. 【文学史】『徒然草』の作者・成立した時代・ジャンル（種類）を答えなさい。